



何のために知り合うのか

園長 野中 泉

春は、はじめましての季節です。4月の各クラスの懇談会にもそれぞれに「自己紹介」の時間がありました。「食べ物は何かが好きですか?」「趣味・好きなことは何ですか?」「最近一番怒ったことは何ですか?」などなどビンゴゲームだったりサイコロトークだったり趣向を凝らした自己紹介を「なるほどお」「あら、そうなのね」と楽しく聞かせてもらいました。

本当にはじめましての人ばかりの0歳児クラスの入園式直後の懇談会では、お父さんお母さんも緊張の面持ちで「よろしくお願いします」と順番に頭を下げ合う自己紹介でスタートです。代わりに担任の直ちゃん（福島保育士）が自分の家族構成などを話した後「バタバタと落ち着きない私ですが、0歳児クラスの担任は何回も経験しています」と話しはじめ、身体づくり等0歳児の保育で自分が大事にしていることやこだわり等について、直ちゃんらしい飾らない言葉で語り「だから、安心して預けてくださいね」と自己紹介すると、固かった保護者の表情がほっと緩んだことが印象に残りました。

もうひとクラス、印象に残ったのはみかん組、5歳児の自己紹介です。自己紹介のプログラムの前にみかん組の4月の様子が担任のみやびちゃん（前川保育士）が語られたのですが、自分と友だち（他者）との関わりが活発になる5歳児らしく（あたりまえですが）4月のスタートからすでに様々な事件やトラブルが起きていました。丁寧な前川保育士の報告に、その様子がよくわかり、お父さんお母さんたちも、頷き合ったり、笑いあったり。すると懇談会全体の司会をしていた主任の志賀ちゃん（志賀保育士）は、「次は、自己紹介とプログラムには書いてありますが、せっかくだから、今の話を聞いてどんなことを感じたかを話しませんか。プログラムを変更してもいいですか?」と参加者に問いかけました。そうして、はじめた話は多岐にわたりました。我が子が紹介された出来事の当事者だったお母さんの戸惑う気持ち、それに共感する声や、逆に同じ出来事から全く別な感想を持ったという話もありました。発展して自分の子育てへのこだわり、悪いことしたらしっかり叱るし叱ってほしいと熱く語るお父さんもありました。子ども同士のやりとりだけでなく、その時の保育士の対応への率直な疑問の声でもありました。何年も懇談会を重ねているクラスの仲間だからこそ、みんなが安心して、ひとつの出来事への自分の正直な思いを語り合うその時間は、不思議ですが、どんな「自己紹介」よりもずっとその人がよくわかる「自己紹介」になっていると感じました。

ずっと以前、私が30代で子育て真っ最中だった頃に永野むつみさん（人形劇団ひばり代表、「59点ママの子育て」「くそばあと言われたら赤飯を炊こう」など子育て講演会が全国で好評）という方の講演を何度かお聞きしたことがあるのですが、その中でずっと心に残っているお話があります。永野さんは参加者の私たちに「あなた、血液型何型?」「何月生まれ?」「年齢は何歳?」と次々に聞いていき、そのうち「ご両親の職業は?」「ご主人の年収はおいくら?」と更に質問を重ねていきました。だんだんに不躰になる質問に、「えっ?」と戸惑う参加者に「答えないでいいわよ」と笑いながら、こんなふうには永野さんのお話は続きます。「たとえ、こんな質問を何問続けたからって、その情報を全部知ったからって、私たちは、その人に自分の本当の辛い胸のうちのうちを打ち明けてみようとは思いません。もっと言えば、大事な我が子を預けたいとも、一緒に子育てする仲間になりたいとも思わないの。では、人は何を知ったら、この人に子どもを預けてもいいと思えるのか。この人だったらこの辛い思いをわかってくれるかもしれないと思えるのか。それは、この人はこんなことで憤る人なのかとかと驚いたり、私と同じことを大事に思っているとか共感したり、こんなことを悔しがったり、こんなことに涙する人なのだと知ることでしか得られない信頼。そんな時間の積み重ねでしか、本当の意味での子育ての仲間にはなれないのよ」。

あれから、数十年が経ち「そうなのか」と驚きと共に受け止めた言葉は、「やっぱり、そうだった」という確かな実感にますます育っています。保護者と保護者、保育士と保護者、子どもを真ん中に一緒に歩むアトムでの一年間がまた動き出しました。今年もきっと、ともに悩み語り合う毎日が大事な自己紹介の連続になることでしょう。どうぞ、よろしくお願いします!

学び合いのなかできた計画

山本健慈（熊取町子ども・子育て会議 委員長
アトム共同福社会理事 大阪観光大学理事長）

昨年 1 月の本計画の策定の会議スタートから熱心に議論していただいた委員のみなさんに感謝申し上げます。また日常実務と並行し計画策定実務にあたり会議準備および計画書の原案作成に取り組まれました担当課のみなさんに御礼申し上げます。

さて本会議を終えるにあたり、委員長としての感想と今後への若干の希望を述べさせていただきます。

第一に、会議の目的は、最終的に「報告」をまとめあげることですが、その過程が重要です。私は座長として、異なった経験をもつ委員が、それぞれの立場から自由闊達に発言し、地域・社会全体でなが必要であるかについて事務局の行政職員とともに共通認識を形成できるように毎回の会議を進行することに心がけました。その意味で会議は、委員と行政職員の学び合い、共同学習の場であったということを書いておきたいと思います。これは長年培った熊取町の「住民の力」であり、行政職員の住民との「協働」への姿勢であると思います。

第二に、今次の計画は、若者を含んで「こども」とし、これまでの子どもへの施策を超えるものになりました。そのため公募若者委員二人だけでなく、より多くの若者の意見を聞くため、役場職員に「役場若手部会」と作っていただき、一住民の立場から、また自分がかかわる行政分野から意見集約をしていただきました。この試みは、この計画自体にとっても意味があったと思いますが、未来の熊取町行政を担う役場職員が「住民の力」にふれ、住民との「協働」の経験の一端を知る機会にもなったと思います。参加された 20 人の役場職員には、この経験と記憶を役場の若手世代に共有する共に、今後の人生と職務に生かしていただきたいと思います。

第三に前期計画に引き続き「保育所・幼稚園部会」、「放課後児童健全部会」「子育て支援部会」「地域・若者支援部会」を設置し、計画の関係部分についての内容づくりに取り組んでいただきました。そのなかで保育所・幼稚園部会をきっかけに公民を超えた事業者同士の恒常的な連携が生まれていることは、長年の計画づくり等での相互理解が生み出したすばらしい果実だと思います。

各部会関係者においては、関連事項について毎年の評価点検に取り組んでいただきたいと思いますし、事務局も部会を恒常的な位置づけで運用していただきたいと思います。

最後に私は、1996 年からはじまる熊取町総合福祉計画や 1999 年からはじまる児童育成計画の策定から、今日の「こども計画」策定に連なる町の作業に関与してきましたが、一貫して追求してきたことは、図書館づくり、共同保育所づくり、学童保育所づくりという「住民と行政の協働」の精神と方法を継承することでした。今世紀にはいり子育て支援政策を「次世代育成支援対策」としてバージョンアップするための立法作業が厚生労働省内で着手された際に、私はその作業チームにレクチャーすることを求められました。その会を主宰された政策統括官（のちに事務次官）は、会の前に私に「世間でも政治家も少子化が大変だというが、口ばかりである。財務省まったく財政的手当をする気がない、その政治や財政の在り方を許さないという主権者が生まれる学びのプロセスを地域の計画づくりに組み入れたい。熊取町でやっている住民参加という手法について法案づくりをしている中堅・若手にレクしてほしい」と話されました。この次世代育成支援対策法は 2003 年 7 月施行され、熊取町では 2005 年 3 月「熊取町次世代育成支援対策地域行動計画」として策定されました。本計画は、上記の歴史の到達でもあるのです。

2100 年にむけ、今の日本は人口 5000 万人の時代に向けた歩みをしています。本計画にもとづく事業展開と計画のフォローアップのなかで、人口 5000 万時代の未来が設計できる「主権者」の登場を期待したいと思います。



熊取町こども計画への参画について

2025 年年 3 月に熊取町のこども計画「第 3 期子ども・子育て計画」が策定され、その内容が熊取町のホームページにアップされていることを知っていますか？

検索 ⇒ 熊取町こども計画 [kodomo-keikaku-honpen.pdf](https://www.kodomo-keikaku-honpen.pdf)



「熊取町こども計画」は、こども基本法に基づき、こどもや若者、こどもの保護者を対象としたアンケート調査や関係団体へのヒアリング、「熊取町子ども・子育て会議」での議論を踏まえ、令和 7 年から 11 年度における本町のこども・子育て支援、若者支援の取組をまとめたものです。基本理念を「多様な『こども・若者の育ち』や『暮らし』を認め合い、支え合う、対話的まちづくり」と定め、様々な施策に取り組んでいくための指針となるものです。

この子ども・子育て会議の座長は、アトム共同福祉会の理事で元和歌山大学学長、現大阪観光大学理事長でもある山本健慈さん。野中 泉園長も民間園の代表としてその策定に参加している他、つばさ共同保育園の保護者折笠知佳さんや、昨年までアトム共同保育園でアルバイトをしていた大阪体育大学の太幸 虎太郎君など、公募で選ばれた若い子育て世代の代表や若者代表の委員も一緒にその策定の議論に参加していました。熊取町で、子育てしているみんなにとっても関りの深い計画です。興味のある方は、ぜひ、検索してみてください。

次ページには、山本委員長が書かれた策定に寄せられたコメントを掲載します。併せて読んでください。

熊取町民間保育園・こども園の協働について

熊取町には、現在 6 園の民間保育園・こども園があります。実は、この 6 園（アトム・つばさ 西 フレンド さくら すみれ）が 2023 年から「協議会」をつくり一緒に活動をしています。

園内にポスターがはってある「就職フェア」も 3 年目。そして、昨年からは 2 か月に 1 回、民間園だけでなく町立の 3 園（中央 東 北）の園長先生や保育課課長と、また必要に応じて子育て支援課、学校教育委員会の担当者とも公民所長会議として、熊取町全体の保育施策について日常的にしっかりお話をさせてもらう場が定着するなどうれしい前進が続いています。

5 月 29 日には、去年に続き、協議会として藤原町長との懇話会を予定しています。「子育てに優しいまち」がキャッチフレーズの熊取町ですが、少子化、不登校の問題、障害児保育の課題などたくさんの問題が山積みです。行政に、現場の声（要望）を届けながら、一緒に考え合う活動を続けていきたいと思っています。

事務室前に置いてあるペットボトルのキャップを集める活動（途上国にワクチンを届ける活動）を通して、そんな民間園の協議会の活動、熊取町全体の子育て施策への働きかけを応援してください。

